

あかし 生きている証を残す修学の2年間

園芸学科 中 溝 喜 慶

1. はじめに

私は、還暦という節目をあどけない幼児期すなわちこれからが成長期という過程に還り余生への再出発点として位置付けていた。退職後、あと何年生き延びられるのか全く解らない残された限りある貴重な時間を有意義に消化せんがために、ある日のこと迷うことなくレイカディア大学に入学願書を郵送していた。幸いにも入学の許可を得てから早1年6ヶ月の歳月が流れようとしている。悪戦苦闘した現役時代とは違って何のわずらわしさも感じることなく、黙々と通学し、かつのびのびと過ごせる在学期間は、私にとって「生きている証^{あかし}を残す修学の2年間」であったと自負しつつ学生生活を楽しんでいる。

2. 生きている証とは

私は、田畑もなく「猫の額」だけの庭があるだけで園芸学科を選択した変わり者かも知れない。ある早朝の国道1号線の交差点、東京の実家を友達二人で家出した未成年の娘さんが運転する赤信号を無視して進入した車に側面に衝突されて、私のワンボックスカーは、天井を地面にくっつけたまま信号機の支柱に激突して大破した車内に閉じ込められた状態のままレスキュー隊によって救出され病院に運ばれたのだ。まさしく九死に一生を得たが、この事故の後遺症として今も右鎖骨が折れたままとなって外見的な生きている証となっている。一方、この事故をきっかけに“拾った余命を生きる”ことを肝に銘じつつ“素直にありのままに生きる”という考え方に徹することを誓ったのが51歳の時であった。さらに退職後は、「あと何日あと何年生きられるのか？」と自問自答しつつ、内面的な生きている証を残すべく、いつしか一日一日を“悔い無き生活”とするように自らを鼓舞しつつ努力している。

①講座受講とホームページに「レイカディア大学修学奮戦記」を追加公開

幸いにもレイカディア大学に入学を許可されたこともあって、必修講座といい選択講座といい未経験分野の講義に耳を傾けながら楽しみつつ、脳裡をかすめた瞬間的なヒラメキをメモとして残し続けることにした。このメモこそが、私が約7年前に開設していたホームページに新設ページとして「レイカディア大学修学奮戦記」をアップロードすることになる。まさしく“生きている証”の情報発信のスタートとなったのだ。

必修講座は、私が歩んできた道・技術屋としての領域とは全く違う、その道の専門家であることも手伝って講義に惹きつけられ、かつ興味を注ぐようになったのかも知れない。人間理解・社会参加・郷土理解どの講義も私にとっては新鮮であった。なかでも1年生の時に、人間理解の一環として京都・妙心寺での座禅は、初体験にもかかわらず妙に感動し、煩惱の渦に巻き込まれそうな私の脳裏に「仏」の存在を意識さすに充分であった。一方、選択講座は、田畑もなく私を取り巻く環境が悪いこともあって実践できない講義内容が多かったのも事実であるが草花の寄せ植えや庭木の剪定実習は卒業後も大いに役立つ糧となることは確かであろう。校外学習での巨木探訪は、暴風雨・落雷・戦国時代という過酷な環境に耐え抜いて数百年もの長き歳月を生き抜いてきた樹木に心で乾杯しつつ脱帽するばかりであった。片腕をものがれようがお腹をえぐられようが懸命に威容を保ち続けてきた巨木は、かよわい

人間いや私に対して勇気と忍耐を要求しつつ“希望に向かって突き進め!!”と叱咤激励されているかのようだった。

こうして見聞した事柄に対して私は、感じ取ったままを装飾することなく記事“わがままひとりごと”として公開することを決意したのだ。実現するかどうか現時点ではわからないが、いつの日にか自分史として整理するような日が来るとすれば、現役引退後の貴重な記録誌の1ページとして復活することだってあるだろう、と思う。

トップページ画面

私のホームページ 構成図

必修講座 受講記



選択講座 受講記



↓ レイカディア大学修学奮戦記



*興味ある方は、ホームページご覧になって下さい

<http://www1.ocn.ne.jp/~nobushi/>

②学内でのホームページ作成教室開催

先輩からの勧めもあって、滋賀県社会福祉協議会のホームページ「びわこシニアネット」の更新メンバーの仲間に加わったことがキッカケとなって、初心者を対象に「ホームページ作成教室」を開催することになった。日頃から、貧乏暇無しというのか何かと忙しいこともあって、私の都合だけで教室の日程を決めることになって今でも受講者にはご迷惑をかける状態になっている。第26期生で卒業された先輩には卒業後もこの教室に参加してもらっている。

小人数での教室は、ホームページの作成に関連して生じるあらゆる疑問に答えるべく方法としたこともあってパソコン全般についての勉強会となっている。ホームページの作り方の最初は、私自身のこだわりもあってワードで作成し、ホームページの流れ・階層の原理原則とワードの奥深さを理解してもらったつもりでいる。

この2月21日に感激の日を迎えることができた。“教え子”であるスポーツ・レクリエーション学科の大江良子さん（第27期生）がトップバッターとしてホームページを公開することができて大きく羽ばたいてくれたのだ。ホームページという新

たな世界へ仲間入りした喜び・感激は、かつて私が独学でホームページを公開できた時の喜び・感激が今でも残っているように、彼女自身にとっても生涯忘れられない日となるであろう。しかも、アメリカ在住の息子さんご一家に、日本からの両親の健在ぶりと生身の温かい情報源として各ページをブラッシュアップしながら継続的に発信されるであろうし、私自身も大いに期待している。さらに、2番手3番手の“教え子”がホームページを公開できる日も近々だろうことを期待しながら私も微力ながら支援することを約束したいと思っている。

③学内でのパソコン教室支援

2年生になると、卒業論文に相当する「紀要」を書かねばならない。大学では、“パソコンで紀要を作成しよう”を合言葉に2年生のパソコン初心者を対象に受講生を募集された。第1回目は、募集初日に定員20名を超え先着順で受講生が決められたと聞く。第1回目の主講師は、卒業された第25期生の先輩・田村輝雄さん（陶芸学科）、第2回目は、同じクラスの中尾善三郎さんが主講師を引き受けてくれた。この2回の教室で副講師としてお手伝いすることができたがパソコンを習いたい学友への支援が微力ながらも出来たかな、と思っている。

私にとって、パソコンはライフワークの中で大事な一つのツールとして切り離せない存在になっている。日本で初めてパソコンなる機器が登場した当時から挑戦してきたが当時はソフトが皆無で、N88ベーシックという言葉で懸命にプログラム作成の勉強に時間を費やしたことを思い起こす。「 $n = n + 1$ 」にどうしてイクオールなんだ？、と頭を抱え込んだこともあるが振り返ってみると、その頃が一番楽しかったのかも知れない。パソコンで苦勞することもなく企業生活を送れたがこの頃の楽しみながら苦勞したことが活かされたかと思っている。それから約26年の歳月が流れているが現在でも家庭内ランで4台のパソコンを繋いで遊びに耽っている。

ここで、私のパソコンについての持論を紹介しておこう。パソコンは、年配者の方の必需品とすべきだということだ。現在、レイカディア大学に在籍する年代は、パソコンが企業に導入されて苦勞された方が大半ではなかろうか、むしろ逃げたかったのかも知れない世代のはずだ。これからは、晴耕雨読もさることながら、時間を作ってパソコンの前に座り込んでインターネットの世界を覗いたり、デジカメ写真を編集して楽しむことをお勧めしたい。ただ、インターネット情報の善悪を判別しつつ取捨選択すべきことを念頭に置いておくことを忘れるな、と言付け加えたい。

④クラブ活動に参加

自ら認めている一番似つかわしくないダンスクラブを選択したのだが、案の定なかなか覚えられないまま2年間が過ぎようとしている。でも、クラブが他の学科の方、先輩・後輩との架け橋となってくれたのも事実であるし、クラブ活動に参加したことに感謝している。

3. おわりに

私にとっての修学の2年間は、卒業後の方向性を決めたかのような。現在もボランティア活動として続けている近くの公民館での「パソコン工房」に加えて、さらなるパソコン教室への拡大支援に微力ながら尽くしたいと考えている。